

“人生80年時代” 老いてますます元気で

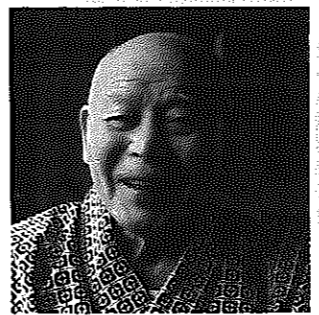
本市は若返り傾向に

人生八十年という高齢化社会を迎え、全国的には八十五歳以上が百万人を超えるなど、高齢化は早いペースで進んでいます。六十、五歳以上の割合は、全国が一一・二%、県内は一四・一%ですが、

本市は昨年の一四・二%を〇・七ポイント下回る一三・五%と、全国的な傾向とは逆に若返り傾向が見られます。

八月一日現在の本市の人口は、三万五千四百七十九人ですが、六十五歳以上のお年寄りは四千七百七十五人です。そのうち男性が千八百七十八人、女性が二千九百五人で、長寿番付は女性上位。「老いてますます元気で」と、お年寄りの活躍が報じられています。経験を生かし、長く社会に貢献していただきたいものです。

| 東 | | 東 | 西 | 西 | | |
|-------|----|--------|-----|-------|----|-------|
| 小池キク | 98 | 犬婦新田 | 横綱 | 和平フサ | 97 | 桜町3 |
| 関根ミチ | 96 | 丸 渦 | 大関 | 千野松治 | 96 | 古 町 |
| 渋谷ハツ | 96 | 山崎興野 | 関脇 | 平松ツタ | 96 | 田 中 |
| 高橋トリ | 95 | 田 中 | 小結 | 田村ミセ | 94 | 下木山 |
| 坂井末五郎 | 94 | 能 登 3 | 前頭1 | 小柳ヒデ | 94 | 犬婦新田 |
| 小林サク | 93 | 西笠巻新田2 | 同 2 | 青木準治 | 93 | 中鷲ノ木2 |
| 渡辺駒治 | 93 | 丸 渦 | 同 3 | 田中マツ | 93 | 能 登 3 |
| 柳通竹治 | 93 | 蔵 主 | 同 4 | 玉本文吉 | 93 | 五六の町2 |
| 阿部収一郎 | 93 | 上木山 | 同 5 | 米山ミヤ | 93 | 田 尾 |
| 桑原ヨシ | 93 | 庚 | 同 6 | 田中トワ | 93 | 水道町1 |
| 田中久平 | 92 | 庄 瀬 5 | 同 7 | 長谷川サキ | 92 | 上木山 |
| 阿部三代治 | 92 | 横 垣 | 同 8 | 飯沼ロク | 92 | 左エ門小路 |
| 小林ヨシ | 92 | 真木新田 | 同 9 | 鈴木ヨノ | 92 | 三の町 |
| 夏川ヨシ | 92 | 平 渦 | 同10 | 石村弥一郎 | 92 | 下町甲 |
| 谷川フミ | 92 | 戸 頭 | 同11 | 深沢トイ | 92 | 丸 渦 |
| 石田マキ | 92 | 万 年 | 同12 | 東條タセ | 92 | 辨物師興野 |
| 泉 精松 | 92 | 万 年 | 同13 | 青木ハツ | 92 | 中笠巻 |
| 小林ミヨ | 92 | 五六の町1 | 同14 | 広川ヨキ | 92 | 下塩俵 |
| 竹内リイ | 91 | 下八枚 | 同15 | 渡辺イヨ | 91 | 中央通3 |
| 熊倉マキ | 91 | 魚町3 | 同16 | 平山キヨ | 91 | 桜町2 |
| 樋浦ムツ | 91 | 大通南2 | 同17 | 松沢サキ | 91 | 小蔵子 |
| 小山源太郎 | 91 | 朝 捲 | 同18 | 本間キノ | 91 | 西酒屋 |
| 山口ミネ | 91 | 桜町1 | 同19 | 加茂テン | 91 | 桜町2 |
| 藤原フキ | 91 | 西笠巻新田2 | 同20 | | | |



▲男性最高齢者千野松治さん(90)

くよくよせずに
何でも食べて腹八分目
よく働き、よく眠る



▲市内最高齢者小池キクさん(90)

本市の長寿番付の東の横綱は三年連続して小池キクさん(九十八歳・犬婦新田)、そして男性の最高齢者は千野松治さん(九十六歳・古町)でした。

小池キクさんは明治二十二年十一月二十四日のお生まれです。昨年までは元気に敬老会にも出席していたということ。最近は大車をとって、好きな散歩は控えめにしているそうです。

笹だんごやもちなどの甘い物は目がなく、「毎日食べても飽きない」と恥ずかしそうにうつつむいて話される姿は、ほんとうにかわいいおばあちゃんです。

千野松治さんは明治二十五年二月十二日生まれ。若いころから酒やたばこはいっさいしなかったという千野さんは、目や耳が達者だから幸せ者だと話します。

お二人とも足腰が丈夫で、若い時から外に出て働くのが大好きだったそうです。今はこれといった病気もなく、医者にはかかっていないということ。まさに健康こそ長寿のあかしといったところです。

お二人それぞれに長寿の秘けつをお伺いしたところ、異口同音にくよくよせずに、好き嫌いやなく何でも食べて、腹八分目、よく眠りよく働くという答えでした。

これからもますます長生きをしていただきたいものです。

一変した和泉地域、今は珍しい昔語り

語る人

荒木 宏さん
(和泉六十六歳)



私の思い出
あの時の場所

県道白根安田線が新設された明治二十年代は、会津文化の流入が盛んとなり、行商人の往来も多く、三丁継(衛生センター付近)にあった茶屋には、町の市日に柴を背負った「カカ」たちの良き休み場であった。

それが町村合併により、衛生センターができ、県道の改修が行われると、それまで茶屋の跡にあった民家もなくなり、昭和四十八年

に工業団地が造成されてからは、長い長い原っぱも短く感じられるようになった。子どものころに、馬車や行商人の歩く姿や、バスが珍しくて、ときどき見に行つたことなどが思い出される。汽車の音とともに矢代田山や護摩堂山に棚引く煙も見えなくなった。高校や中学校もできて、朝夕は通勤や通学で車と人波が続くようになった。

和泉の周辺には、二百戸以上の新しい住宅ができて、車の通りも激しくなり油断もならず、ときどき救急車の音も聞こえる。五十年の思い出も、今は珍しい昔語りとなった。

あなたの思い出を
お寄せください

「あの時この場所」は、あなたの思い出を語ってもらうコーナーです。市内をはじめ、市外、県外、海外の心に残るあの時の思い出を、写真といっしょにお寄せください。あて先は〒950-12 白根市大字白根12335 白根市役所企画調整課広報広聴係(☎0330)です。

しろねの農産物

④ 米



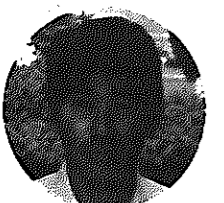
今年の生産者米価は、二年連続の値下げとなり、六〇%当たりの八百十四円(四・六%)の減額となりました。さらに、米の生産調整による転作率は二・三%で、実に水田経営面積の約四分の一に米が作れない状況となっております。

このような中で、本市の米作り農家は、良質米の生産の増大と生産コストの引き下げで所得の確保を図っています。

本年度は、コシヒカリの作付け面積が全面積の五〇%に達し、昨年より一〇%も増加しました。政府米よりも高値で売り渡せる自主流通米銘柄の作付け率も、一五%増の八〇%になりました。

農業機械の償却費と作業ロスを低減させ、生産コストを引き下げようと、数戸の農家が集まって協同(業)経営で実施する動きが最近活発になっています。本市には八つの協業組織が有り、うち二つは本年度設立したばかりの組織です。

生産者の声



細井一嘉さん
(沖新保・51歳)

転作(麦・大豆輪作)跡地には「もち米」を作付けしていましたが、転作面積がこれだけ増えてくると、コシヒカリや越路早生もこれからは作付けしなればなりません。やっぱり良質米で勝負して所得を確保します。